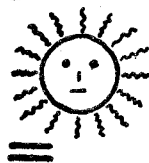


一九三六年

(昭和十一年)



天



象



八

(花山天文臺)

月

I——太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出 (星座)	日没
日	時分	時分
1	5:6 (かに)	19:0
6	5:9 ”	18:55
11	5:13 ”	18:50
16	5:17 (し)	18:45
21	5:21 ”	18:39
26	5:25 ”	18:32
31	5:28 ”	18:26

日付	夜半の月齢		月出 (星座)	月没
	日	時分		
1	13.4	17:30 (いて)	2:48	
2	14.4	18:13 ”	3:51	
3	15.4	18:52 (やぎ)	4:58	
4	16.4	19:27 (みづがめ)	6:4	
5	17.4	20:1 ”	7:13	
6	18.4	20:34 (うを)	8:21	
7	19.4	21:8 ”	9:30	
8	20.4	21:45 ”	10:40	
9	21.4	22:29 (ひつじ)	11:48	
10	22.4	23:16 (をうし)	12:56	
11	23.4	— ”	14:1	
12	24.4	0:8 ”	15:2	
13	25.4	1:4 (ふたご)	15:56	
14	26.4	2:6 ”	16:42	
15	27.4	3:9 (かに)	17:23	
16	28.4	4:12 ”	18:0	
17	29.4	5:12 (し)	18:31	
18	0.9	6:12 ”	18:59	
19	1.9	7:10 ”	19:27	
20	2.9	8:6 (をとめ)	19:54	
21	3.9	9:1 ”	20:22	
22	4.9	9:58 ”	20:53	
23	5.9	10:53 (てんびん)	21:28	
24	6.9	11:50 ”	22:6	
25	7.9	12:46 (さそり)	22:49	
26	8.9	13:49 (へびつかひ)	23:38	
27	9.9	14:32 ”	—	
28	10.9	15:19 (いて)	0:33	
29	11.9	16:4 ”	1:33	
30	12.9	16:44 (やぎ)	2:33	
31	13.9	17:22 (みづがめ)	3:44	

II——天象

日 時	天象
1, 22	水(北0.4°)と金と合
6, 15	土(南3°)と月と合
11	木星が停留
15	天王星が停留
15, 23	火(北4°)と月と合
16, 1	水(南0.8°)と海と合
18, 22	金(北7°)と月と合
19, 16	水(北5°)と月と合
24, 5	金(北0.4°)と海と合
26, 17	木(北2°)と月と合

満月 8月25日 14時49分 下弦 8月3日 12時47分
 新月 8月10日 5時59分 上弦 8月17日 12時21分

主な流星群

日付	赤経	赤緯
8 日	42°	+57°
16 日	52°	+58°
8月—9月	346°	0°
6月—8月	310°	+61°
中旬—下旬	290°	+53°

附近の星

ペルセウス座	速痕} 顯著
ペルセウス座	
魚座	緩速}
セフェウス座	
白鳥座	速

遊 星 界 (8月)

水星 蟹座から秋分点(乙女座)のあたりまで順行する。宵の星になった。月末ほど太陽から離れるから、宵の西空に見易くなる。19日には月と合の位置になる。鎌のやうに細い月と仲好しの輝星の微笑、これが炎暑に苦しむ私達への親切な贈物である。

金星 位置は宵で、水星よりも太陽に近い。光度は-3.4等であるから、小望遠鏡の所有者は日没後の西天を捜してみるのも一興。

火星 暁の東天にある。観望には適しない。位置は蟹座。

木星 初夏の頃から親しまれてゐる南天の輝星。日没後、空がまだ明るいのに、早くから、「一番星」として登場する。位置は赤いアンタレス星のすぐ東、殆んど動かない。光度は幾らか弱くなつた。

土星 位置は水瓶座と魚座との境界近く、殆んど動かない。光度も7月に比して強くなり、早く東天に見られるやうになつた。この愛嬌星も大切な鉢巻を天の河原におき忘れ、今さがしてゐるとき。

天王星 暁の星。牡羊座にある光度6等、肉眼では見られない。望遠鏡でさがすと面白い。等光度の彗星よりも見易いのではあるまいか、微星を求める快味は経験者のみを知る。

海王星 宵の西天にわづかに見える位置にある。月末は全くダメ。獅子座の8等星である。

冥王星 もう蟹座に入つてゐるのであらうか、悠久な運行をつづけてゐる。眼をつむつて考へてゐると太陽系の大がわかる。一度見たいが、どうも縁がうすい。

ペルテヤ彗星と下保彗星 位置は花山急報を見よ。

× × ×

星座 西の空にわづかに残つてゐる春の星座もやがて退いて、團扇で招いた涼しい風が浴衣の袖から躍りこむ頃になると、雄大な銀河が天頂にかかる。星座の美を知るに絶好期。解説するさへヤボ。時の流れを忘れ、東天にプレヤデスを迎へてやつと安心する。間もなく柱時計が1時を報じる。